

錦秋の奈良公園を散策

大学13回生

大学13回生の全国大会が平成29年11月19日（日）から20日にかけて、古都奈良で開催された。



名門「奈良ホテル」に34名が集まった

私たち13回生は15年前、還暦大会の実施を機に2年に1回、各地区の持ち回りで全国大会を実施してきた。今回は関西の番だったので①手作りで②思い出に残る大会にすべく、天皇家が里帰りされた時の宿、名門「奈良ホテル」において石川四極学会長も出席して総勢34名で旧交を温めた。

大会の前、13時30分から興福寺、東大寺、二月堂など錦秋の奈良公園を名物の鹿とともに散策して心を癒した。

大会は18時から石川会長の大企业及び四極会の状況説明から始まり、各地区の幹事が近況報告を行った。懇親会では名門ホテルの料理に舌鼓を打ちながら、尺八とお琴のクラボ演奏、各地区のど自慢と続いた。

一番盛り上がったのは、「マドンナ」3人娘“の歌だった。昔懐かしいものから今の若者の歌

まで、きれいにハモっていた。これには男性陣も全員総立ちで拍手を送っていた。最後に全員で校歌、寮歌を歌って閉会した。翌日は「幻の邪馬台国」を求めて28名で大和盆地を巡った。唐子遺跡（弥生式環濠集落）、箸墓古墳（卑弥呼の墓ではないかといわれている）、黒塚古墳

（33枚の三角縁神獣鏡を出土）、自然崇拜のシンボル大神神社を巡り、魏志倭人伝を紐解きながら大和説か北部九州説かの議論を楽しんだ。

午後は平城宮を訪ずれたが、改修工事が始まっていて、大極殿を遠望するにとどまった。

後期高齢期に入り、終活を意

識し始めた同期のメンバーには古都奈良がそれなりの思い出に残ったものと思っている。また、今後の本大会の在り方についても協議（80歳まで現行を続け80歳で最終判断をする）して散会した。

（幹事代表・三浦征洋 記）